

平成 28 年度 荒尾市総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成 28 年 7 月 29 日 (金)
開会 午前 9 時 30 分 閉会 午前 11 時 00 分
2. 場 所 荒尾市役所 市長公室
3. 出席者 荒尾市長 山下 慶一郎
荒尾市教育長 永尾 則行
荒尾市教育委員 境 民子
荒尾市教育委員 西尾 直子
荒尾市教育委員 泉 亜矢
荒尾市教育委員 旭田 國浩
(事務局職員) 総務部長 江上 芳一
政策企画課長 宮脇 浩司
政策企画課 政策経営室 平山 裕也
教育部長 前田 修治
教育振興課長 北原 伸二
生涯学習課長 大神 英子
教育振興課 庶務係長 松井 敏彦
教育振興課 庶務係 貴田 優梨亜
4. 傍聴者 0 名
5. 協議・調整事項
(1) 荒尾市の教育の現状について
(2) 荒尾市教育大綱について
6. 議事経過の概要
別紙のとおり

○議事経過の概要

1. 開会

宮脇政策企画課長から、開会の宣言及び配付資料の確認がなされた。

2. 主催者あいさつ

山下市長から、あいさつがなされた。

- ・教育は未来への投資の最たるものであると考えている。優位な人材を育てていくことが、国や地域の将来にとって大きく影響してくると思う。
- ・教育委員会と市長部局との相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進するため本会議を設置したが、市民の負託に応えるため、本会議を活用しながら教育行政を推進したい。
- ・本市には豊かな自然環境や歴史・文化があり、教育現場として大きな財産を有している。これを活用し、志が高く、自立したたくましい人材を育てていきたい。

3. 自己紹介

委員及び事務局職員にて、自己紹介を行った。

4. 会議の経過について

平山から、資料1に基づき説明を行った。

質疑・意見等はなし。

5. 協議・調整事項について【進行：山下市長】

(1) 荒尾市の教育の現状について

北原教育振興課長及び大神生涯学習課長から、資料2に基づき説明を行った。

【意見等】

〔境委員〕

課題がたくさんあるという印象である。

〔旭田委員〕

学校教育の努力目標の中に、「自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性の育成(豊かな心)」と掲げられているが、先日相模原市で発生した障がい者施設における殺人事件などを見ると、どうして差別感情が生まれてしまったのかと憤りを覚える。勉強することも大切だが、心の教育も大事だと思う。

〔泉委員〕

特別支援学級の児童生徒数が大きく増えており、今後ますます力を入れなければならない分野だと思う。

〔山下市長〕

特別支援学級の児童生徒数が増加している原因は何だろうか。障

〔永尾教育長〕

がいに関する研究が進んで、昔は障がいと認められなかったものが認められるようになったことで対象者が増えていると聞いたことがあるが、それ以上に家庭環境の変化による影響があるだろう。特別支援学級に在籍する子どもの数も増加しているが、通常学級の中にも要支援者がいるのが現状である。特別支援教育支援員の数も限られており、通常学級の担任が1人だと要支援者への対応が十分にできない。特別支援学級への入級に当たっては対象者の保護者との話し合いが重要であり、いかに早い時期に話し合いができるかが重要となる。

〔旭田委員〕

第四中学校には昨年度までは、通常の学級に通いながら別途個別的な指導を行う通級学級があり、それにより学力向上に繋がっていたが、今年度は通級学級がなくなっており残念である。

〔永尾教育長〕

通級学級も増えてはいるが、配置できる学級数に限りがあり、申請しても認定されないこともある。県にも要望が多数集まっているだろうから、苦勞しているだろうと思う。

〔西尾委員〕

障がいの発見が早くても、その後の手立てをしてくれる施設や職員が地元が少ないため、治療等のために遠方に行かなければならず、保護者も働いており通院のための時間がとれず対応が後回しになってしまっている。巡回相談だけでなく、実際に手立てをしてくれる方を増やしてほしい。

一方で、毎年子どもは成長しているとも感じている。教職員の質も含め、教育環境は少しずつ整ってきていると思う。それを後押しするためにも、教育費の予算を増加してもらいたい。

〔旭田委員〕

学校訪問をするが、設備の面で学校間格差が生じている。同じ市内で住む地域によって格差があるのは良くないと思う。

〔境委員〕

学校現場では教育環境の向上に力を入れているが、行政では教育予算を増やすための努力をしているのか疑問である。トイレをはじめ設備が古く、扇風機も音が大きいばかりで涼しくもならない。子どもたちは汗を流して授業を受けているのが現状で、学校現場の努力だけでは解決できないところにきていると感じる。電子黒板なども含め、技術の進歩に合わせた教育環境整備は喫緊の課題だと思つたため、教育費の予算も、少なくとも全体の10%程度は確保してほしい。それが行政として、市内の子どもたちに期待しているというメッセージになるだろう。

〔山下市長〕

教育予算については多方面からも意見をいただいております改善していかなくてはならないと感じている。教育は投資の最たるものだ

〔泉委員〕

と考えているが、単にお金をかけて施設整備をするのではなく、限られた財源であるので、知恵を出し合い、効果の高いお金の使い方をしたと考えている。学校現場の環境は認識している。

〔山下市長〕

市立図書館を含め図書館を整備して、読書環境を整えてもらいたい。読書にも魅力を感じてもらえるような環境を整備しないと、子どもたちはテレビやスマートフォンなどのメディアばかりに興味を湧いてしまっている。

〔永尾教育長〕

読書のおもしろさについては大人が伝えていかなければならない。

〔境委員〕

普段本を読まない子どもたちをいかに育てていくかが重要である。本を読まない子どもたちに読ませるためには、まずは学校図書館の環境を整えることが大事である。読書の推進が学力向上にもつながる。

〔山下市長〕

ボランティアの尽力で読み聞かせの機会は増えているが、読み聞かせだけでなく、子どもが自ら読むようになるような仕掛けをしてほしい。ボランティアが増えることで、してもらうのを待つ受け身の子どもが増えているようだ。能動的な子どもを育てるためにも、読み聞かせの方法から工夫が必要かと思う。

読書ボランティアの例をとっても、人材などを十分に活用しきれていないところがあるようだ。今ある資源を十分に活用できているのかどうかを検証した上で、さらに必要な部分については財源も含め手当てをしていかなければいけないと思っている。

(2) 荒尾市教育大綱について

宮協政策企画課長から、資料3に基づき説明を行った。その後、境委員から教育大綱の案が提案され、双方についての意見交換を行った。意見を踏まえ、今後事務局にて荒尾市教育大綱を策定することが確認された。

【意見等】

〔境委員〕

事務局の案には「荒尾干潟」や「小岱山」などの固有名詞が入っており、「荒尾の宝」という表現が、子どもではなくこれらの資源を指すのかと思われた。提案したものには、将来どこへ行っても荒尾を愛する子どもを育てたいという想いが込められている。

〔旭田委員〕

教育大綱なので、子どもに焦点を当てた表現にすべきではないかと思う。子どもを育てるに当たって大人が目指す方向というのが教育大綱であると認識している。

〔山下市長〕

教育大綱の範疇は、学校教育を対象としているのか、市民全体の

- 教育を対象としているのか。
- 〔事務局〕 →生涯に亘った教育についての大綱であり、学校教育に限定する必要はない。生涯を通じた教育を対象としている。
- 〔山下市長〕 子どもは宝であり、教育については子どもが中心であるのは間違いないが、提案されたものは学校教育に特化しすぎている気がする。
- 〔境委員〕 他自治体の教育大綱では、学校教育に特化している教育大綱もあった。
- 〔事務局〕 →子どもを育てることで将来の社会を築いていくと考えると、子どもに焦点を当てても問題はないだろう。
- 〔山下市長〕 固有名詞を入れたのは「荒尾らしさ」を表現するためである。人とふるさとを愛することが必要だという想いと、死語になりつつある「志」という言葉を入れたいという想いがある。社会が悪くなっている原因は、自分のことや目先のことばかり考える人間が増えているからだと思う。周りのためにどう役に立てるかを考えることができる高い志をもった人間を育てたい。また、自立した人間が増えることで、余計なお金や手間もかからなくなり、それが大人になるということでもある。「市民総ぐるみ」という言葉はとても良いと思う。なお、「縁」は「えにし」と読むようにしたい。
- 〔境委員〕 有名な固有名詞を入れるよりも、大々的なものでなくとも、身近にある小さな魅力に気付いてほしいという想いはある。具体的な固有名詞が入りすぎると、観光案内のような感じもする。
- 〔永尾教育長〕 最終的には教育大綱は市長の想いを踏まえて策定するものだと思うが、現在策定中の教育振興計画の基本理念は、表現も含めて教育大綱に合わせた方が良く思っている。
- 〔境委員〕 教育大綱としては、「人とふるさとを愛し 志高く 自立する人づくり」だけの方がシンプルで良いと思う。
- 〔西尾委員〕 事務局案の解説文を読んでも、荒尾市の将来を考えてもらっているのが分かる。これを誰もが目で見て理解できるような形で残しておくとう分かりやすいと思う。
- 〔旭田委員〕 垂れ幕などを作成して市庁舎に掲げるなど、教育大綱が常に見えるようにしておいてほしい。
- 〔境委員〕 荒尾市の将来や教育行政について市長を交えて話し合うことができる機会ができたことは良かったと思う。今後は、学校現場においても教育大綱を唱和するなどして浸透を図るとともに、いろいろな場面での市長のあいさつにおいても、教育についての話を織

〔山下市長〕

り交ぜたりしてもらいたい。

教育大綱については、事務局案の解説文の中で、「これらの豊かな荒尾の宝を」の後の「ともに」を「市民総ぐるみで」に修正し、策定させていただきたいと思う。その他、キーワード等については、文字を強調するなどして工夫したい。

(3) その他

最後に、全般を通して意見交換が行われた。

【意見等】

〔境委員〕

元教員という立場から当時を振り返ると、設備にしても、労働環境にしても、学校現場は過酷だったと思い出される。市役所でも、夏にエアコンを使わずに会議をすることを考えてみてほしい。今は「夏は暑いものだ」ということでは通用しない時代・環境になっている。学校訪問をする度に、大人が逆の立場だったら必ず文句を言うだろうと思う。

英検チャレンジについての取組みは良かったと思う。合格するという成功体験をさせることは大事なことである。

〔旭田委員〕

学校訪問で比較してみると、涼しい教室では子どもたちは真剣に話を聞いており、エアコンの効果は侮れないと感じた。暑い教室では先生も殺気立っている感じがした。

〔山下市長〕

限られた財源なので、国の補助金も活用しながら、他事例を研究して効果的なお金の使い方を考えるよう、担当部署に指示しておく。

6. その他

特になし。

7. 閉会

宮協政策企画課長から、閉会の宣言がなされた。